

2023年3月期決算補足資料

2023年4月28日
北海道ガス株式会社

2022年度決算の概要

売上高は、ガス販売量の増加に加え、
原料費調整制度による販売単価の上昇等により、連結・個別ともに増収
経常利益は、ガス販売量の増加等により、連結・個別ともに増益

北ガスグループ[°]（連結）〈2期連続の増収・9期連続の増益[経常利益]〉（ ）内は、前年同期比

売上高	1,748.4億 (+478.8億円、+37.7%)	経常利益	133.9億円 (+60.9億円、+83.4%)
営業利益	133.4億 (+62.8億円、+89.2%)	当期 [※] 純利益	99.6億円 (+47.2億円、+90.2%)

※親会社株主に帰属する当期純利益

北海道ガス（個別）〈2期連続の増収・7期連続の増益[経常利益]〉（ ）内は、前年同期比

売上高	1,542.0億 (+471.2億円、+44.0%)	経常利益	119.2億円 (+59.6億円、+100.1%)
営業利益	120.8億 (+63.1億円、+109.5%)	当期純利益	89.5億円 (+45.9億円、+105.4%)

個別

2期連続の増収・7期連続の増益

- ・ガス販売量の増加に加え、原料費調整制度による販売単価の上昇等により増収
- ・ガス販売量が前年同期比0.9%増加したこと等により増益

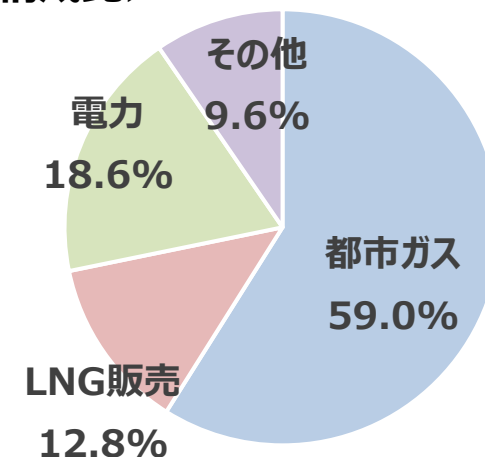
(百万円)

	当期	前年同期	増減	増減率	主な理由等
売上高	154,206	107,076	+47,129	+44.0%	・ガス販売量の増加 ・原料費調整制度による販売単価の上昇 等
営業利益	12,089	5,771	+6,318	+109.5%	・ガス販売量の増加等 ・6期連続の増益（過去最高益）
(営業外損益)	▲ 162	189	▲ 352	-	・社債発行費及び利息等
経常利益	11,927	5,961	+5,965	+100.1%	・7期連続の増益（過去最高益）
(特別損益)	408	0	+408	-	・2020年に収受した都市計画に伴う道路用地 補償金の戻入益
当期純利益	8,958	4,360	+4,597	+105.4%	・3期連続の増益（過去最高益）

個別

都市ガスは販売量の増加や原料費調整制度による販売単価の上昇等により増収

<構成比>



(百万円)

項目	当期	構成比	前年同期	構成比	増減	増減率
都市ガス	90,906	(59.0%)	61,624	(57.6%)	+29,281	+47.5%
LNG販売	19,788	(12.8%)	10,583	(9.9%)	+9,205	+87.0%
電力	28,728	(18.6%)	22,140	(20.7%)	+6,588	+29.8%
工事・器具その他 (LPG等 附帯事業含む)	14,782	(9.6%)	12,728	(11.9%)	+2,054	+16.1%
合計	154,206	(100%)	107,076	(100%)	+47,129	+44.0%

連結

2期連続の増収・9期連続の増益

個別決算の増収に加え、ガス器具販売・リフォーム事業が好調だったことで、
売上高は前年同期比+37.7%増。経常利益は同83.4%増

(百万円)

	当期	前年同期	増減	増減率	主な理由等
売上高	174,840	126,957	+47,882	+37.7%	・ガス販売量の増加及び販売単価の上昇
営業利益	13,342	7,053	+6,289	+89.2%	・ガス販売量の増加等 ・6期連続の増益（過去最高益）
経常利益	13,395	7,303	+6,091	+83.4%	・9期連続の増益（過去最高益）
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,963	5,237	+4,726	+90.2%	・特別利益：都市計画用道路用地補償金戻入益 ・7期連続の増益（過去最高益）

◇売上高 内訳（セグメント別）

(百万円)

項目	当期	構成比	前年同期	構成比	増減	増減率
ガス (都市ガス、LNG販売)	109,943	(62.9%)	72,734	(57.3%)	+37,209	+51.2%
電力	28,550	(16.3%)	21,997	(17.3%)	+6,552	+29.8%
エネルギー関連 (工事・器具、LPG他)	34,887	(20.0%)	30,571	(24.1%)	+4,316	+14.1%
その他	1,459	(0.8%)	1,655	(1.3%)	▲195	▲11.8%
合計	174,840	(100%)	126,957	(100%)	+47,882	+37.7%

※連結売上高には、事業間の売上高を含んでおりません。

利益剰余金の増加により、自己資本比率は35.8%に上昇

(億円)

項目	当期	前期末	増減	
総資産	1,837	1,604	+233	・原材料在庫の増加 ・固定資産の増加
負債	1,158	1,012	+145	・社債の増加等
純資産	679	591	+88	・当期純利益による利益剰余金の増加

項目	当期	前期末	増減
有利子負債 (億円)	805	701	+103
自己資本比率 (%)	35.8	35.6	+0.2

期末 1株あたり40円配当 (10円増配、年間70円)

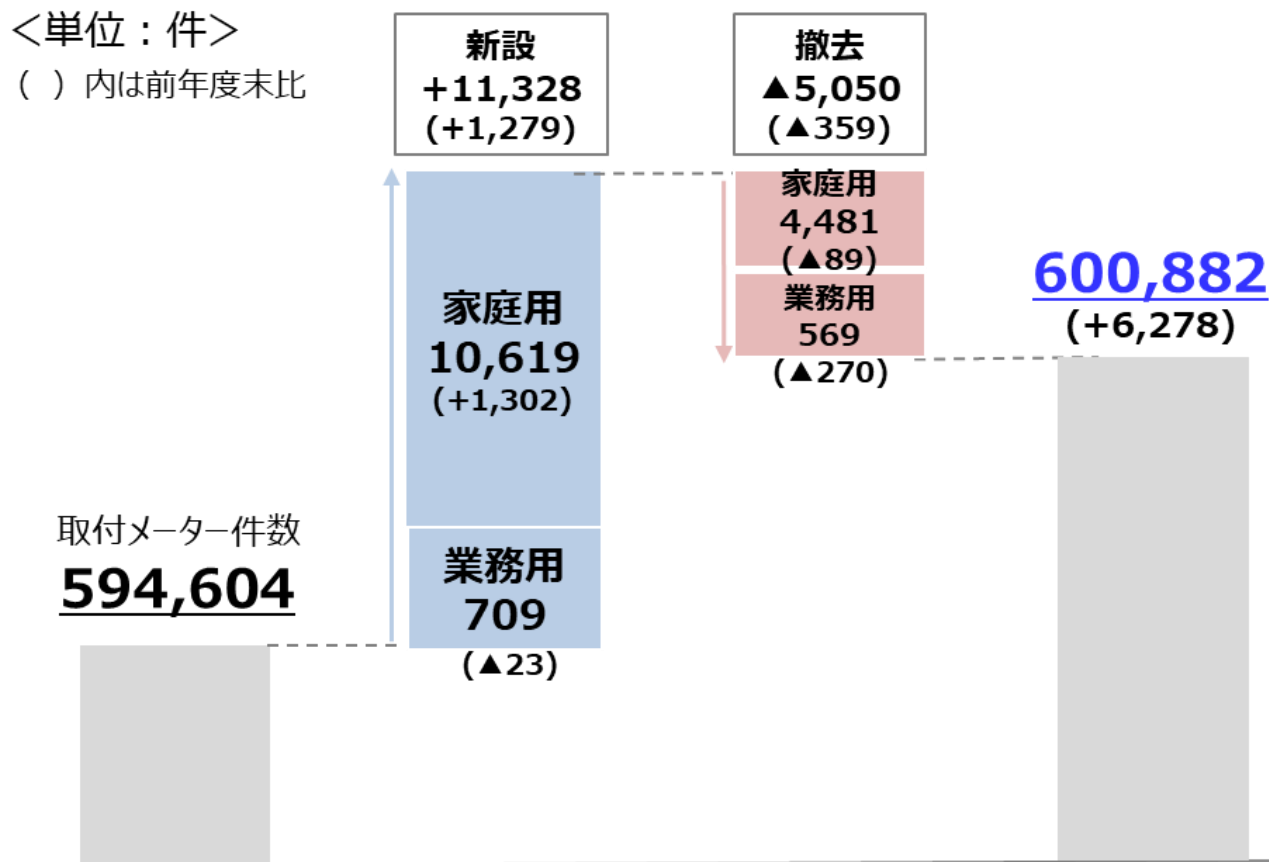
	1株当たり配当金		
	期 末	第 2 四半期末	合 計
2023年 3月期	<u>40円00銭</u>	30円00銭	<u>70円00銭</u>
2022年 3月期 (前期実績)	30円00銭 (普通配当30円00銭)	30円00銭 (普通配当25円00銭) (記念配当 5円00銭)	60円00銭 (普通配当55円00銭) (記念配当 5円00銭)

主要計数 <ガス（お客さま件数）>

お客さま件数
(取付メーター件数)

600,882 件 (前年度末比 +6,278件)

新築家庭用のお客さま獲得が計画を上回ったことに加え、既築物件における燃料転換の推進により、堅調にお客さま件数が伸長



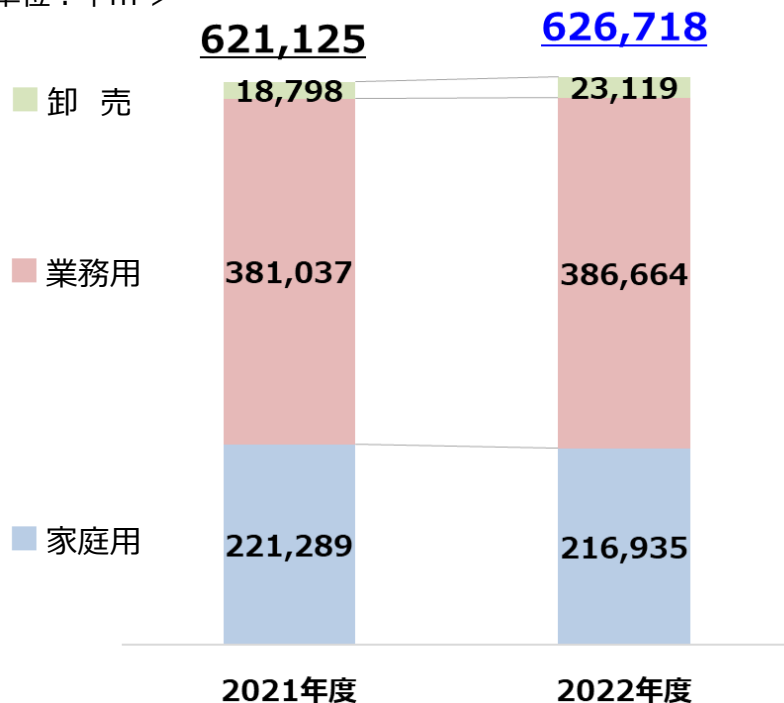
主要計数 <ガス（販売量）>

ガス販売量

6億2千7百万m³（前年度末比 +0.9%）

- 家庭用は、新築のお客さま獲得が順調に進む一方、春先と冬の気温が高く推移した影響等により、減少
- 業務用は、観光業の回復等による稼働率の向上により、増加
- 卸売を含めた全体では、0.9%増

<単位：千m³>



◆2022年度と2021年度の比較

合計 : +5,593千m³ (+0.9%)

業務用 : +5,627千m³ (+1.5%)
観光業の回復等による稼働率の向上

家庭用 : ▲4,354千m³ (▲2.0%)
春先・冬の気温が高く推移した影響等により減少

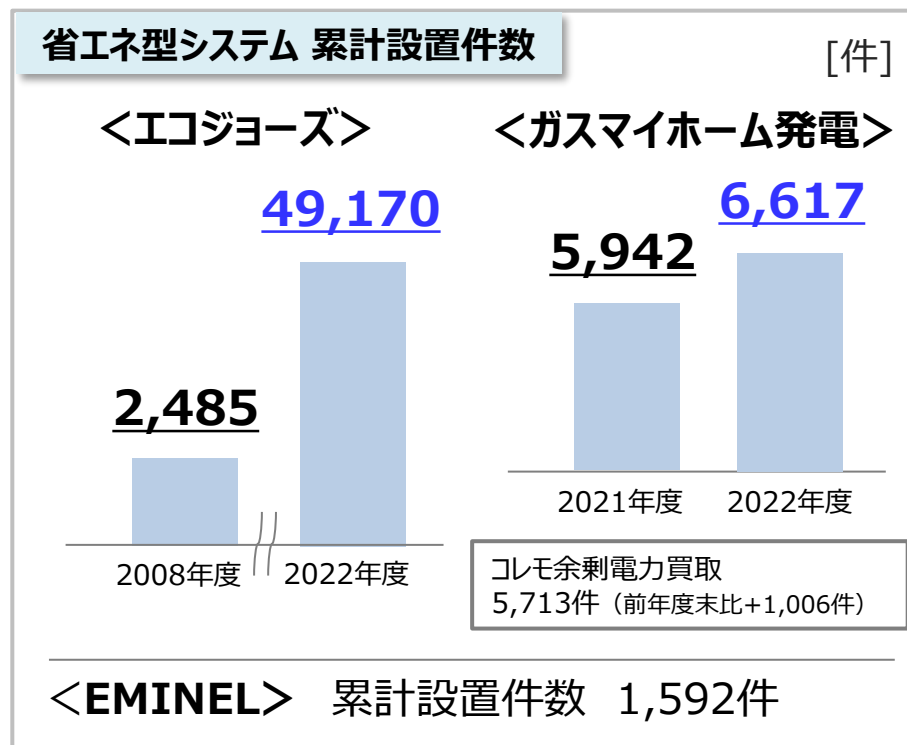
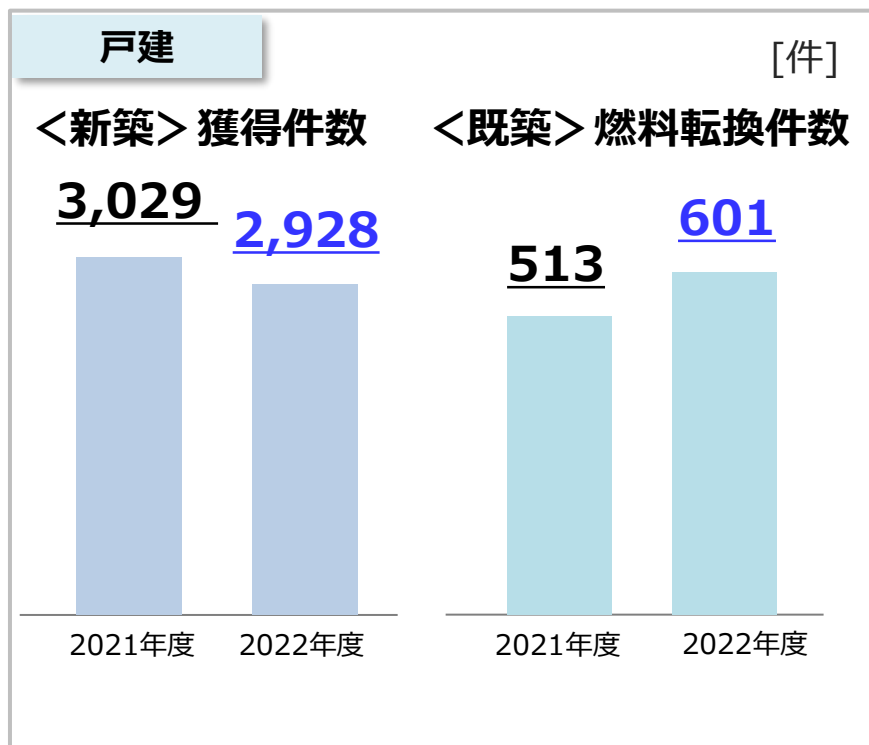
<新築>

- 戸建は省エネ性と災害対応力をPRし、ガスマイホーム発電の件数を積み重ね、累計6,617件にコレモ余剰電力買取は5,713件（11百万kWh）まで拡大
- 分譲マンションは需要の高まりにより着工件数が堅調な中、95%の採用率※を維持し、2千件を獲得

※建設地の近くまでガス管が敷設されている場合における都市ガス採用率

<既築>

- 天然ガスへの燃料転換が進展、燃料転換件数は6期連続で500件を超える



- 食品工場やホテル、商業施設、飲食店など、幅広い分野で需要獲得が伸張
- 省エネとレジリエンス強化を両立するZEB物件の普及を推進
- 北海道熱供給公社等との共同提案により、札幌市が「脱炭素先行地域」に選定
- 「北ガスグルメチケット」を活用し、地域経済活性化に向けたキャンペーンを展開

ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の普及推進

- 当社初のZEBコンサルティング物件が2022年12月に竣工（道内初の天然ガスを活用したカーボンニュートラルビル）
- 電源自立型ガスヒートポンプ（GHP）導入により、災害時にも業務継続を可能とするレジリエンス強化のZEBを実現



カーボンニュートラルビル
オフィスビル（札幌市）



オフィスビル（札幌市）

札幌市が環境省の「脱炭素先行地域」に選定

- 環境性、レジリエンスに優れたエネルギーネットワークの構築
- 熱供給源の再エネ・カーボンニュートラルガスの活用
- 施設のZEB化推進 他



札幌都心部への地域熱供給

飲食店応援キャンペーン※の展開

- 「北ガスグルメパートナー」の加盟店（札幌市内の約120店舗）で利用可能なクーポンを配布
- 配布枚数：約51,000枚
利用金額：約20,000千円



※「札幌市商業者グループデジタル販促応援事業補助金」の採択事業

主要計数 <電力>

お客さま件数

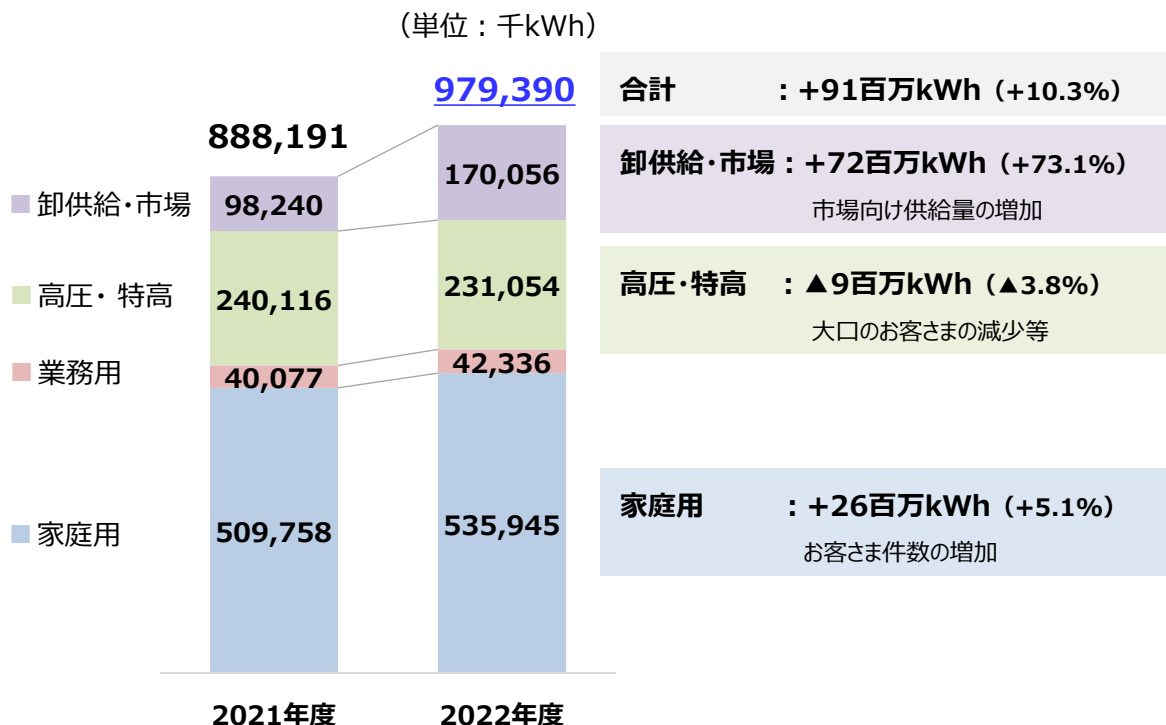
234,083件
(前年度末比 +24,316件)

電力販売量

9億7千9百万kWh
(前年度末比+91百万kWh、+10.3%)

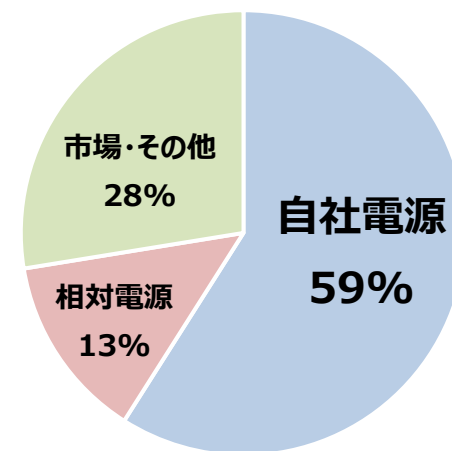
- Webマーケティングの強化により、家庭用のお客さま件数は堅調に推移
- 販売量は、家庭用でお客さま件数の拡大に加え、市場への供給量を拡大したことにより増加

<販売量内訳>



<2022年度の電源構成>

北ガス石狩発電所や札幌発電所による高い自社電源比率を確保し、安定的な電力供給を継続



【kWhベース】

- ガスは、新築物件での獲得シェアの維持・拡大や既築物件での燃料転換、ガスマイホーム発電、天然ガスコージェネレーションシステム及び札幌都心部の再開発に伴う新規物件の獲得により着実にガス需要を積上げ、ガス販売量は6億5千万m³を計画
- 電力は、低圧分野を中心に競争が激化する中でも、デジタルを活用した営業等により、お客さま件数を25万件まで拡大し、電力販売量は9億9千万kWhまで伸長させる

() 内は前年同期比

ガス	販売量	6億5千万m³	(+23百万m ³ 、+3.7%)
	取付メーター件数	60.4万件	(+4千件、+0.7%)
電力	販売量	9億9千万kWh	(+7百万kWh、+0.7%)
	お客さま件数	25.0万件	(+1.6万件、+7.0%)

- ・ 売上高は、ガス販売量及び低圧電力販売量の増加を見込む一方、原料費調整制度による販売単価の低下の影響等により、5.3%減の1,655億円を計画
- ・ 経常利益は、家庭用を中心にガス・電力の需要を着実に積み上げ、連結経常利益として0.8%増の135億円を計画

北ガスグループ° (連結)

北海道ガス (個別)

売上高	1,655億円 (▲5.3%)
経常利益	135億円 (+0.8%)
当期純利益	97億円 (▲2.6%)

売上高	1,447億円 (▲6.2%)
経常利益	120億円 (+0.6%)
当期純利益	87億円 (▲2.9%)

(参考) 原油価格・為替レート的前提

原油価格：80ドル/バレル・為替レート：130円/ドル

設備投資 (連結) 227億円 (+9億円)	設備投資内訳【億円】			
	製造 (LNG基地等)	11	11 附帯 (再エネ・熱供給等)	94
	供給 (ガス導管等)	82	無形固定資産 (DX等)	29
	業務 (ファシリティ等)	11	合計	227

2023年度の主な取り組み（DX推進）

「情報プラットフォーム基盤」の構築

- 社内外に存在するあらゆるデータを繋ぐシステム基盤「情報プラットフォーム」を構築し、事業構造を抜本的に変革
 - この核となる「情報共通基盤」を、2023年10月にリリース予定
 - これにより、お客さま情報のより深い分析や、エネルギーマネジメントの高度化、経営指標の迅速かつ正確な把握・予測を実現する

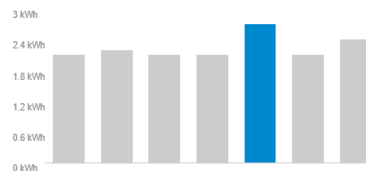


お客さまとの関係の深化 事業プロセスの変革

TagTagによる省エネサービスの充実

- 省エネコミュニケーション・ランキング制度において、2部門（都市ガス・電気）で2年連続最高評価
- お客さまとの双方向のデジタルコミュニケーションツールとして、さらなるサービスの充実を図る

日ごとの電気のご使用量の内訳
最もご使用量が多かったのは9月9日(金)です。 [詳細を見る](#)



経済産業省の制度における北ガスの評価
(2022年度、都市ガス・電気)。両部門で
2年連続最高評価(5つ星)は全国で唯一

新さっぽろエネルギーセンターの本格運用

- 2023年11月末までに街区内のすべての建物が竣工し、AIを活用したCEMSの本格運用を開始
- マンション入居者向けに専用アプリを提供し、利用者参加型エネルギーマネジメントを展開



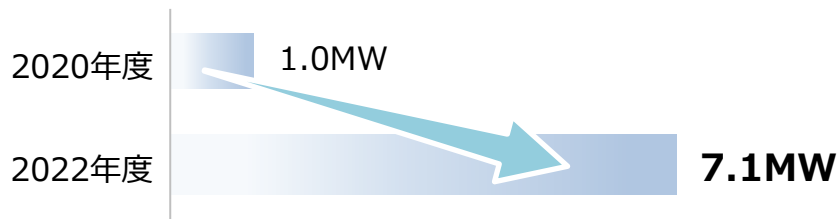
省エネ要請
→
省エネ協力
←



再生可能エネルギーの導入拡大

太陽光発電所

- 2022～2024年度までの3か年で
低圧太陽光発電所を300か所新設



厚沢部太陽光発電所



芦別太陽光発電所

北ガス石狩風力発電所

- 2023年4月着工、2024年9月運転開始
- 出力変動の調整力として、北ガス石狩発電所を活用



自治体との連携による脱炭素化推進

- 脱炭素先行地域との連携により地域の脱炭素化と再生可能エネルギー普及拡大を推進

札幌市

- CGS（コージェネレーションシステム）活用
- 熱供給熱源のカーボンニュートラルガスへの切替
- 市有施設のZEB化

GXリーグへの参画

- 「GX（グリーントランスフォーメーション）リーグ」※
に今年度より参画

※経済産業省公表の「GXリーグ基本構想」に基づき、GXに挑戦する企業が、産官学金と協働できる枠組みとして設置されたもの

